第 72 回日本 PTA 全国研究大会、
第 56 回関東ブロック研究大会川崎大会　参加報告

富士市 PTA 連絡協議会
副会長　飯島やよい

2024.8.23～24
川崎市とどろきアリーナ
ウェルビーングの実現を、川崎の地から～活かそう「縁」の力～

メインテーマ
・社会の大きな変化を学び、進化を考える PTA 活動
・自己肯定感を高め合い、活力ある PTA 活動
・誰も取り残さない、居場所を大切にする PTA 活動

「第 72 回日本 PTA 全国研究大会、第 56 回関東ブロック研究大会川崎大会」に参加させていただきましたので、その報告をさせていただきます。
快晴の中、とどろきアリーナへ約 3 千人の人々が参集し、館内中央に 4 つの巨大スクリーンをしつらえた、まるでプロレスのリングを見守るかのような舞台配置で大会は進められました。

お伝えしたいことはたくさんあるのですが、あまりに多くあり過ぎるので印象深かった部分を凝縮してお伝えさせていただきます。

開会式では、何よりも能登半島の方々への黙禱が印象的でした。この大会の人間的な心の優しさや他者を思いやる心が感じられました。
それに加えて PTA の歌も歌いました。私にとっては初のフルバージョンでの斉唱でした。3,4 番では「お、幻の」などの声が上がっていました。

まず「ウェルビーイングとは」何かをわかりやすく説明してくださいました。
「新しいコンセプト、目標と測定」なるほど。

「今が楽しい⇒これからの将来に希望を持てる⇒この町・学校を良くしたい」いいね！PTA としてはもちろん、まさに私の仕事の根幹です!!
ややもすると周りと足並みを揃えねばと思ってしまいがちな日々ですが、「快楽よりは『生きがい』、国によっても地域によっても違う。自分の学校のウェルビーイングを！」の言葉に「みんな違ってみんないい」の優しい金子みすずの精神のようだと思い、とてもあたたかな気持ちになりました。

また「個のウェルビーイングなくして場のウェルビーイングには届かない、まずは個人から『今が楽しい』になっていくことが大切」。これ、ついつい自分のことは後回しになってしまっている教育現場の方々や保護者の方々に是非ともお伝えしたいなと思いました。
また実際に仕事をしていると感じる「日本社会におけるウェルビーイングの難しさ」は「同調意識、ミスすることへの不安…」正にその通り!!
それには「場づくり/信頼関係」が大切。これが学校でも地域にでも本当に重要。私はそれでとても苦労しています。私のどうすりゃいいの？の疑問に「より寛容な社会であること」とのお答え。やはり意識改革から、なんですね。

全体基調講演　西野博之氏

この間、教育プラザにポスター掲示してあった映画、そうそう面白そうだなって思ってた映画のことだ…「ゆめパの時間」と聞いて真っ先にそう頭に浮かびました。
「NHK ドキュメント 72 時間　視聴者が選ぶ 2022 年度年間ベスト 1 “どろんこパーク”雨を走る子どもたち」…知ってる、見ました、録画してあったので 2, 3 回リピートして見ました。私の大好きな回でした。
この講師の方はそこを作った先生なの？すごいな！この方の話を生で聞けるだけでも全国大会の会場に来させていただいたことに本当感謝しました。

「なぜ日本社会で虐待・体罰が減らないのか」
昨夜子どもと you tube を見ているとその昔、体罰で死亡事故まで起こした某ヨットスクールの代表が you tuber となり番組を作ったとのこと。お約束で体罰

についての持論を展開し案の定、大炎上。しかしこの持論への肯定派の方、令和においても思ったよりもいるらしいです…
「なぜ体罰が減らないのか」の答え。それは「根強い職人の『半人前』思想」とのこと。確かに‼そうですよね、「生意気に」とか「～もできないくせに」なんて自分も言われてきましたが、実際に自分が子どもにも言ってしまうこともありました。

「大人なら会社を辞めることができる。しかし、子どもは学校辞めるという選択肢がない」だから「学校に行けないだけで自らいのちを絶ってしまう」…
近年の子どもの自死数の多さにショックを受けましたが、その大人には単純だけれど子どもにとってはあまりにも大きな理由にあらためてショックを受けました。

「生きづらさを抱える子どもたち」
大人でもそうなのだから繊細な子供たちはなおさらですよね。「自己肯定感が低い」＝自信がないこと、「おとなの不安が子供の自信を奪う」何でも親が先回りして「失敗」させないようにしている…それって数年前までの私です。そのせいで長男は自分で何も決められない子になっていました。ある時期「もう十分に育ったから何でも自分で決めて。困ったら早めに相談してね」と伝えました。すると始めは生まれたての子鹿のようでしたが、今では水を得た魚のように責任感を持ってきちんと先を見据えて行動してくれています。
それが西野先生のおっしゃる「自分で決めさせる。子どもに裁量を与える」ということだったんだと気づかせていただきました。
もっと早く西野先生のお話を聞きたかった！
「弱音が吐けない家庭環境」あ、これも我が家だった。
「安心して失敗できる環境づくり」「できないことを受け入れる力も大事」
そうだよね、それも私に必要なこと。

私事ですが、今「不登校ルーム」の開設に向けて少しずつ動き出しています。やっと登校してきた子たちのための居場所づくりです。私は単純に子どもにのみ目を向けていましたが、その「親を支える取り組み（親支援）が必要、大

切」なことも気づかせていただきました。

お話の中で子ども夢パーク内の日本初の公設民営の「フリースペースえん」についても触れられていました。平日時間のある、現役を引退されたプロフェッショナルたちが子どもたちのためにつどい、共にゆっくりとした時間を過ごしていく…これこそが学校と地域を結んだ究極のカタチだと私は思っています。

「『生きている』ただそれだけで祝福される」
「生まれてくれてありがとうを届けよう」
自己肯定感をはぐくむ居場所づくりから、将来的に「社会的自立」を目指す。
「ほっとできる居場所づくり」を。
「『何もしない』ことの保障」。
「『医療モデル』よりも『社会モデル』。その人を治そう治療しようではなく、社会の方を変えていこう」
「できること、好きなことに光を当てる」「だいじょうぶのタネをまこう！」
「問題が起きてから具体的に悩もう」
「親だって失敗していい」「ゆる親のすすめ」
「できないことばかり拾ってしまう」のは「いのちに対して失礼でしょ！」
大切なのは「その子の存在まるごとを肯定的にみるまなざし」これだけでいい…キラキラではないけれどじっくりと時をかけて形成された宝石の原石のような多くの言葉に圧倒されすぎて、自分の考えが浮かぶ暇なんてありませんでした。私の、仕事だけではなく、子育ての疑問に一つ一つに丁寧に答えをくださったかのようでした。

「『子ども夢パーク』は社会教育施設です。PTA（社会教育団体）がんばろうぜ。（西野先生のお言葉）」

最後に、川崎市子ども権利条例策定子ども委員会で出された「子どもからおとなへのメッセージ」一文です…**「まず、おとなが幸せでいてください」**

この大会に参加させていただけたことに本当に心から感謝申し上げます。
ありがとうございました。